

「横輪いも」ブランド化を

伊勢市民ら 伊勢市横輪町で長年
推進協議設立 品質安定、販路拡大

栽培されてきた「横輪いも」を地域ブランドに育てようと、地元住

民や市などが13日、生産者から加工、販売まで一体で取り組む推進協議会を設立した。強い粘りと風味の良さが特徴だが、生産量が少なく、ほとんどが自家消費にとどまっており、品質を安定させ販路の拡大を目指す。

横輪いもは昭和初期に九州から種芋を持ち帰って栽培したのが始まりとされる。2011年に県内の農林水産資源を発掘する県のバイオトレジャーに認定されたのを機に、地元

住民でつくる横輪町活性化委員会を中心に、生産の拡大を図っている。

委員会によると、現在は二十数軒で栽培されているが、それぞれ作り方が異なるという。また寒さに弱いため、土に埋めて保存している。今後は量産化に向け、品質管理や貯蔵方法の確立が課題となっている。

推進協議会は、活性化委と市、県、大手スーパーを経営する「イオンリテール」の4団体で構成。総会では股

立趣意書を交わした。参加者は試食会で芋汁ご飯などを味わった。

横輪いも推進協議会の後、試食をする参加者



上田和夫・活性化委員会会長は「横輪いもは普段の手入れが難しい。品質管理の方法を検討するため、試験栽培を始めている。今後は加工品にも取り組みたい」と話した。

【新井敦】